

## 会 議 録

会議名	平成 22 年度第 1 回八王子市博物館協議会	
開催日時	平成 22 年 6 月 1 日（火）午後 6 時 30 分～8 時 20 分	
開催場所	こども科学館会議室	
出席者	委員	小野一之、柿崎博孝、車田勝彦、高橋佐知子、田野倉宏和、田村知美、深栖義昭、藤岡換太郎、吉田幸子（50 音順）
	事務局	齋藤和仁生涯学習スポーツ部主幹（こども科学館担当）・渡辺徳康文化財課長・森融こども科学館主査・戸井晴夫郷土資料館主査、尾崎光二郷土資料館主査
欠席者	山中幸生	
議 題	1. 協議事項 (1) 平成 21 年度八王子市こども科学館及び郷土資料館事業実施状況について (2) 評価シートについて (3) その他	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	1. 八王子市博物館協議会会議次第 2. 平成 21 年度こども科学館事業実施報告について 3. 平成 21 年度八王子市郷土資料館事業実施報告について 4. 評価シート（案）	

<p>会議の内容 (要旨)</p>	<p>1. こども科学館齋藤館長から「平成 21 年度八王子市こども科学館の事業実施報告」、郷土資料館尾崎主査から「平成 21 年度八王子市郷土資料館の事業実施報告」について配付資料をもとに説明。</p> <p>— 質疑応答 —</p> <p>柿崎会長 事務局の説明は終わりました。意見はありますか。</p> <p>小野委員 こども科学館は、リニューアルをピークに利用者が減少するのが普通なのですが、様々な工夫と努力により良い結果を残しており良いことです。問題は、今年からすでに始まっているのですが、国際天文年が終わりネタも出尽くした感もあり、リニューアル効果も一定期間経過して今年の売りにするところが厳しいと思われます。前年度の実績が良かっただけに今年度の見通しをどう考えていますか。</p> <p>齋藤館長 グラフをご覧ください。平成 22 年度の 4 月・5 月の利用者は過去 3 年のどの年も上回っています。利用者数は、4 月は 4,000 人、5 月は 7,000 人を上回っています。傾向としては、昨年度と同様に無料の部分が伸びている面があります。私どもの設置目的からすれば近隣の方に多く利用されているということが第一義的には一番大事なので、無料の制度があることを PR してでもまずはお客様に来ていただきたいと思いません。今年は 5 月に夜の天体観察会を無料で開催しました。当日は、かなり天気が悪く雨は降りませんでした、雲が多く月がやっと見えるような状況でした。30 人位の参加者があれば良いと考えていましたが、100 人を超える人の参加がありました。要因について考えてみました。直前に月と金星が接近したという天文現象があり、一般紙の社会面も含めて天文のことを報道されることが多かったので、天体観測をしてみたいという気持ちを喚起している部分もあるかとも思っています。もう一つ、昨年度からパブリシティーにかなり力を入れてきましたので、報道が報道を呼んでくれると言いますか、私どもの PR の外に、こういうものに出てもらえませんかとか、こういうロケーションをさせてもらえませんかという引き合いがかなり増えました。企業が無料で 10 万部配布しているフリーペーパーに来月あたりから置かれるものに、私と森が出て夏休みの工作等を紹介するのに合わせて、こども科学館の紹介もしてもらっています。「夏びあファミリー」には、</p>
-----------------------	--

	<p>昨年引き続き大きく掲載される予定です。天文年と日食については、危機感として持っています。爆発的な伸びは難しいですが、PRとか努力を続けていきたいと思っています。</p>
柿崎会長	他にありますか。
小野委員	こども科学館のリニューアルについては、全国的にも最新であることをもっとアピールした方が良いと思います。他のところがリニューアルしてからでは遅いです。リニューアルしてから何年か経っていますが、現状ではかなり良いレベルです。もっとアピールするべきです。
柿崎会長	藤岡委員
藤岡委員	夏には、どのような特別企画を計画していますか。国際天文年も終わっていますし、どのような企画がありますか。
柿崎会長	事務局
齋藤館長	夏休み期間中については、昨年と同様に、常設展示とプラネタリウムの外に必ず体験イベントを開催いたします。今年は日食のように一回のイベントで沢山のお客さんを集めることは難しいと考えています。これは、夏だけでは無いのですが、天文に関する興味・関心が高く、講演会・講座的なものもお客様に喜んでもらえることが昨年度の実績で分かってきましたので、今年は隔月で年間コンスタントに天文講座を行うようにしています。夏休み中にも二回あります。6月には月食がありますが、その前に部分月食の観測ということで、事前講座を開催してご自宅とかでも自分で観測出来るようにしたいと考えています。月食の本番の時には、また観測会を開催する計画です。昨年のように一回のイベントで、ものすごく多くのお客さんを集めるようなアイデアはありませんが、こつこつとコンスタントに行っていくと思っています。夏休みには毎日イベントを行いますし、職員も頑張っていますので、天文講座のような年間講座を行うなど、イベントの数は増えて行くことと思っています。
柿崎会長	ありがとうございます。月食は何日になりますか。
齋藤館長	6月26日の土曜日になります。曜日も良いので観望会を行います。併せて20日に学習会を行います。
藤岡委員	はやぶさが帰って来ますが、何か行いますか。
齋藤館長	まだ日程が決められないのですが、はやぶサの関係で御講演をいただいた「JAXAの曾根先生」が回収チームに入って

	<p>いまして回収して無事に日本に帰ってきましたら日程調整をして講演会をやっていただくことになっています。今月はハヤブサ月になっておりまして、プラネタリウムでも上映していますし、ハヤブサに関することについては、当館の森が月食の講座をやる日に合わせて「ハヤブサ・日本の宇宙開発」という話もすることになっています。工作の方も連動させましてハヤブサのペーパークラフトをやる予定でいます。先ほど申し上げた回収に行った後のハヤブサの講演会の日程が決まらないのは、実はカプセルが何時見つかるか分からないということです。ピンポイントで追えるわけではないので、カプセル回収の日付が未定であり、回収してきて一定期間カプセルの中を見て、成果も出た段階で「回収にまつわるお話」と「中に入っていたもの」についてお話をしに来ていただく約束はしています。</p> <p>柿崎会長 ありがとうございます。他に何かありますか。</p> <p>深栖委員 講座が色々ありますが。成果については、当初の見込みに対して実績はどうでしたか。三段階、ABCで評価するとどの様な結果になったと考えていますか。</p> <p>齋藤館長 講座等については、定員を設けて実施するものになりますから定員に対してみますと子供の長期休業期間中に行ったものについては、「○」とか「A」という表現をしても良いかと思えます。キャパティシーがあれば、もっと沢山来ていただいて良いところなのですが、科学に関してもっと普及啓発をしたいという目的からするとお客様が来る目的とがぴったりと一致したものでないかもしれません。特に夏休みはお子さんが「夏休みが終わって学校に課題を出さなければいけない」ということがありまして、最終的に、形となって残るものについては、非常に人気がありかなり早い時期に定員が埋まってしまいます。したがって、講座について良い評価をしたいと考えています。課題として挙げテコ入れしたいのが、自前で行っている「フリー工作・科学実験ショー・科学工作教室・誰でも簡単工作室」この四つあたりはまだまだ工夫の余地があるかと思っています。常勤の科学指導員が行いますので、同じようなものが何カ月かおきに回ってくることもあります。新作を出すよう努力をしていますが、夏休みの</p>
--	--

	<p>ように沢山の人が来ている時ばかりではないので、常設的に行っているものについて改善する余地があると考えています。イベント等と言いますと、講演会の類になります。日食や月食のようにその後にアクションが結びつくような講演会はお客さんを集客し易いのですが、純粹に講演として実施した時には、お客さんを集客しきれいていないので、内容とPR方法の考えどころと思っています。それから、観望会につきましても無料で行っているイベントですので、潜在的にはPRを行って行けば集客を増やすことが出来るのかと思っています。コンサートにつきましてもかなり定着してまいりまして、来たお客さんが内容にかかわらず次の予約をして行くことが増えてきて、コンスタントにお客さんに来てもらえるようになってまいりました。それ以外のイベントにつきましても、どれも人気がありまして集客の一助になっていると思っています。</p>
高橋委員	<p>体験・実験型の器具があると思いますが、以前に老朽化で部品が無く職員の方のメンテナンスで対応しているという説明があったと思いますが、現状はどうなっていますか。また、今後は入れ替わって行くことはあるのでしょうか。</p>
齋藤館長	<p>展示品につきましては、一時、休止状態で動かなかったものもあったと聞いています。開館以来の展示物もございまして、かなり面倒をみながらということになりますが、休止している展示物はないという状態にメンテナンスしております。入れ替えにつきましては、入れ替え予算は無い状況ですが、昨年度に新規で入れた「宇宙飛行士に変身」については、ロータリークラブさんから寄贈いただきました。現在はご寄付をいただいたときに新規展示が増える状況です。ただし、映像系のものにつきましては、展示物の入れ替えまでは行えませんが、限られた予算の中でコンテンツを増やし内容の充実を図っております。具体的には、宇宙飛行士に変身についても当初は、宇宙飛行士に変身するものとパイロットとステュワーデスに変身する二種類の繰り返しでしたが、「水中でフグなどの魚に変身する」コンテンツと「あかずきんちゃんとオオカミに変身出来る」コンテンツを増やし、四種類の変身が出来ようになっております。他の映像系のものについても映像の種類を増やして、リピーターのお客様にも新しい要</p>

	素を楽しんでいただけるように工夫しているところでございます。
藤岡委員	こども科学館の講演会ですが、どの位の人数を想定していたのですか。
齋藤館長	この講演会はプラネタリウムで行いましたので、最大 250 人まで参加することが出来ましたが、館としては 100 名程度を考えていました。この講演会については、結果としては厳しいものとなりました。
藤岡委員	講演会のテーマと内容を工夫しなければいけないと思います。
齋藤館長	夏休み特別天文講演会というのは、夏休みとはいえ平日だったのですが、国立ハワイ天文台の布施哲治さんに来ていただいたときの講演会ですが、この日は、173 人参加していただきましたので、委員さんがおっしゃられるとお内容等工夫し、集客に努めなければいけないと考えております。
田野倉委員	夏休みの行事予定のお知らせですが、学校へは 7 月の初めには届くようにしたら良いと思います。夏休み直前ですと生徒への連絡が上手く届かないので、なるべく早く連絡が出来たらと思います。
齋藤館長	極力早くしなければいけないと考えています。夏休み中は毎日イベントがあるため、私達だけでは全部を賄いきれないので、外部の人達と内容と日程の調整を行っております。昨年度は、夏休み直前にやっとチラシが届いたかと思いますが、今年は、少しでも早く届けられるようにしたいと思っています。
吉田委員	夏休みの行事の情報をこども科学館と郷土資料館と一緒に出してほしいです。
齋藤館長	今年度につきましては、毎年こども科学館で出しているチラシの中に郷土資料館行事も掲載する予定で調整しています。
田野倉委員	プラネタリウムの内容は空のことだけではなく、最近の海の状況等も取り入れたら良いと思います。深海 6500 等、海のことにも関心を持つ人も多くなっているので、海のことにも上映出来たら良いと思います。
齋藤館長	プラネタリウム番組としてそういった内容の作品があるのかどうか、探す必要があります。また、将来的な話になりますが、藤岡委員さんをお願いし、JAMSTEC さんのご協力

	<p>をいただき、八王子市のオリジナル作品を作成出来たら大きなPRポイントになると考えています。八王子市独自のオリジナル作品を作成して行くという方向での検討もして行きたいと思っています。</p>
藤岡委員	<p>こども科学館の映写方式がデジタルで特別なものなので、以前に、現在あるものをその方式に変えることや新しい作品を作成することを検討したが、莫大な費用が必要で無理ということになりました。現在ある番組をそのままスクリーンに放映するというのなら30分程度のものであればかなりの数があります。また、番組に関する解説や講演だったら協力することは出来ます。生物関係は特に人気があります。以前に検討した時には実現出来なかったのでは是非実現したいと思いません。協力出来ます。</p>
藤岡委員	<p>歴史講座「八王子のやさしい歴史」を計画してもらったのですが、今後どの様な計画をしていますか。</p>
戸井主査	<p>この講座は、私どもの学芸員が講師を務めて、会場をクリエイトホールで、全8回のテーマを2回に分けて募集して行くものです。当初、各テーマ毎に募集をする計画でしたが、4テーマを一つに2回の募集になりましたので、その影響が心配されます。今年の実施状況を検証し、来年度も続けて行きたいと考えています。</p>
柿崎会長	<p>八王子市の広報紙に八王子の歴史の紹介が出ていますが、昨年度は何回ぐらい出るのでしょうか。</p>
渡辺館長	<p>広報は毎月、1日と15日に発行されますが、1日号の方に毎月掲載されます。</p>
柿崎会長	<p>郷土資料館の研究成果としたら良いのではないのでしょうか。</p>
渡辺館長	<p>文化財課の文化財担当の学芸員が担当しています。</p>
柿崎会長	<p>違うということですか。</p>
渡辺課長	<p>文化財課の職員は、文化財担当と郷土資料館担当に分かれて業務を行っています。広報紙の文化財紹介は文化財担当の学芸員が担当しています。</p>
車田委員	<p>八王子市の職制上の文化財課と郷土資料館の関係が、市民からは大変分かりにくくなっています。郷土資料館としてのアピールを積極的に行った方が良いと思います。また、広報紙の文化財紹介は、毎月1日号に掲載されていますので、まとめると一冊の素晴らしい本が出来上がると思いますので、大</p>

	いに、活用したら良いと思います。
柿崎会長	深栖委員
深栖委員	郷土資料館が関係したものはすべて共催という形に持って行った方が、アピール出来て良いのではないのでしょうか。
柿崎会長	藤岡委員
藤岡委員	歴史講座のチラシにも主催とも共催とも載っていない。こういったところにも必ず「主催」・「共催」と記載して実績としてアピールするべきです。
柿崎会長	車田委員
車田委員	私の所属している歴史研究会も生涯学習センター川口分館と連携して事業を行っています。主催・共催という形を取り、協力して事業を行うことで、お互いに集客や実績をアピールする面で効果を上げています。郷土資料館という名前をもっと前面に出してアピールした方が良いと思います。
小野委員	特別展「多摩の古墳」が大変好評だったということで良いことだと思います。問題はもう一つの方の「中田遺跡展」の方ですが、前に伺ったときに、東京都埋蔵文化財センターとの共催で開催し、郷土資料館は会場の提供が主で、展示については、埋蔵文化財センターが行ったということで、そのまま結果がストレートに表れてしまったように思いました。展示を専門にする人が行う展示では無くて、並べるだけ、解説も十分でなく、見る人にアピールする点が無かったと思いました。郷土資料館で行う展示会ですので、見る人にとっては郷土資料館の事業ととらえます。今後、連携の在り方を模索されて行くのだと思いますが、今回のような展示からは脱却して行った方が良いと思いました。
戸井主査	東京都埋蔵文化財センターからの提案があり開催したものです。私共としては、以前に行った発掘調査と今回の発掘調査で新たに明らかになったというものを比較するような形の展示を考えていましたが、発掘に携わった人達が出したいものが多くなり、我々が意図した展示とは変わってしまった感があります。東京都埋蔵文化財センターは市内で発掘調査を行っていますので、今までに無かったようなものが発掘されたらコーナー展のような形で、引続き展示を行って行きたいと思えます。
柿崎会長	今年度も6月に入っておりますが、平成21年度の実績を踏ま



	<p>えてより良い活動をされるよう期待しています。</p> <p>平成 21 年度事業実績につきましては、議事を終わります。</p> <p>つづきまして、施設評価シートについてを議題にします。事務局説明願います。</p>
尾崎主査	資料に基に施設評価について説明。
深栖委員	従来説明のあったものに対し、項目を追加したものがありますか。
尾崎主査	大項目については、変更はありません。
田村委員	この施設評価の公開については、どのように考えていますか。
尾崎主査	一つの方法としてホームページでの公開を考えています。
齋藤館長	公表はどのように行っていくかについては、別途議論があっても良いかと思っています。3 回にわたってご議論いただいておりますが、21 年度の評価については、どういう形で評価して行くかということを決めるために、ご議論いただいていたという面が大きかったのかと思っています。実際にこういう項目でというだけで論議をしても立ちいかないの、論議を深めるために実際に数値を入れて評価を行ってみて、委員の皆様からどういう評価が良いのかご意見をいただきました。前回までのご意見を踏まえて事務局が作成したものが、今回提案した評価シートです。この評価は 2 館の評価になりますので、出来るだけ早く事業に反映させる方法で実施して行きたいと考えています。
田村委員	博物館の自己評価結果を一般の人が見て内容や論拠について十分に理解することは厳しいと思います。たとえば、スーパーなど日常的に出入りしているようなところであれば、自分の評価基準があるので自己評価結果を見ただけで実感を持って理解できると思います。自己評価を公表するときには、比較対象となる基準、物差しとなるものも一緒に公表されると分かりやすいと思います。
齋藤館長	おっしゃられるとおりで、公表の際には市民の皆様が分かりやすいものでなければいけないと思います。委員さんからいただいたご意見を踏まえて具体的に良い評価を受けたところ不十分だったところ上げ、今後はこのようにして行くと言ったことを公表して行けるようにしたいと考えています。
吉田委員	組織・運営の危機管理体制のところですが、火災や防災対策だけではなく、不審者や防犯体制、情報管理といったところ

	<p>も重要と思います。</p> <p>尾崎主査 危機管理マニュアルを作成しておりますので、それに沿った対応・訓練が行われているかを評価したいと考えています。</p> <p>柿崎会長 この評価はいつごろ行う予定ですか。</p> <p>齋藤館長 次年度の事業に反映させたいと考えていますので、年度途中で評価、年度をまたぐ形の評価等検討したいと思っています。</p> <p>深栖委員 事務局の説明で良いかと思います。参考に私のいました企業では、予算が決まるのが2月です。そのため、1月に2月・3月の実績を予測して1年間の実績を出して評価をしています。企業の場合は遅いタイミングで短期間にやっています。行政の場合は違うと思いますが、あまり実績が短期間では難しいと思います。公表については、強み弱みを分かりやすく、説明していったら良いと思います。</p> <p>藤岡委員 市の中で公表に関するコンセンサスはどうなっていますか。</p> <p>齋藤館長 行施評価として一定のルールですべての所管が評価されているものは公表されていますが、単独の課で評価して公表しているところは少ないと思います。自己評価をして公表するとなれば斬新な動きとなります。</p> <p>藤岡委員 田村委員も意見を言っていました、同一の博物館で同じ内容・同じフォーマットで評価する方法だと比較できますが、それぞれが独自のものを持っていた場合には評価に対して理解することが難しいと思います。実際にやる方法としては、予算のために半年分をやりその後半年分をやり公表する方法もあるが、公表する時には、ラップアップし分かりやすい形にする必要がある。公表する場合には、どのように公表するかプランを作る必要があります。</p> <p>柿崎会長 他に意見ありますか。</p> <p>柿崎会長 無いようですので、協議会の意見を踏まえて事業の実施をお願いします。</p> <p>議事を終了いたします。</p>
--	---